

令和3年度 自己評価書

令和4年3月18日
真庭市立富原保育園
園長 吉原 幹枝 印

1. 真庭市立富原保育園の教育保育目標

○保育目標

整った環境のもと 一人一人の心を豊かに育み、共に育ちあう子どもの育成

- 元気で仲良く遊ぶ子ども
- 考える子ども
- 思いやりのある子ども
- 最後まで頑張る子ども

2. 本年度の重点目標

○園児がのびのびと遊ぶ中で、考えたり、試したり、友達や保育者と十分にコミュニケーションをとったりすることができるような環境づくり

- ・子どもの興味や関心を持っていることを大切にし、子どもの成長に必要な環境作りをする。

○職員の資質向上

- ・子どもの個性を理解し、子どもが安心して過ごすことができるような関わりをする。
- ・勝山地区3園で取り組んでいる「言葉による伝え合い」の研究を通して、全職員が子どもに目を向け、子どもの成長による言葉の発達について取り組む。

○小学校や地域との連携

- ・保小接続計画に沿い、小学校との交流を行ったり連絡を取り合い、安心して就学を迎えることができるようにする。
- ・安全に配慮をし、地域のお年寄りとの交流ができるようにする。

○安心安全な給食の提供及び食育活動の実践

- ・食の安全に対する認識度を高め、安心して食べることができる給食を提供する。
- ・季節の野菜作りや園の野菜を取り入れた給食を通して食を身近に感じ楽しい食育活動をする。

3. 園評価の個別評価

評価指標	考 察	園総合評価
教育課程・指導計画	園の目標や全体的な計画に基づいて指導計画を立てている。記録から振り返り、必要な援助・支援を行っている。	3
行事	季節を感じる行事を大切にし、計画を立てている。子どもに合わせた内容にしている。	3
組織・運営	職務分担表を基に仕事内容を明確にしている。 職員が協力をし、園の運営に関わっている。	3
学級経営	園児一人一人について職員間で共通理解し、保護者とも連絡を取り合うようにしている。	3
特別支援教育	家庭や関係機関との連携を図り、個々の子どもに必要な援助を行っている。	3
安全管理・保健指導	定期的に安全点検を実施し、設備、用具などの安全に努めた。また、不審者侵入、火災や地震、水害に対しては計画を立て訓練や指導を行っている。 感染症対策として、手指の消毒、マスク着用などの指導を行ったり、掲示物を通して家庭への啓蒙を行っている。	4
研修（資質向上）	園内では保育に必要な研修を計画を立てて行ったり、勝山地区で行っている保育研究を積極的に行うことで資質向上に努めた。	4
情報提供・保護者・地域との連携	各種便り、HP、掲示板、ホワイトボードなどを使ってお知らせをした。行事や保育の様子は、ほいくえんニュースを作成して配布し、わかりやすく伝えるようにしている。	3
小学校との接続・連携	小学校との接続を意識し、アプローチカリキュラムを作成した。小学校職員と相談をしながら交流を行い、互いに学ぶことができる交流の場を設けている。	4

子育て支援	保護者が必要としたときに安心して相談のできる関係づくりに努めた。 支援の必要な子どもについて各機関との連携を取り入れながら対応をしている。	3
食育の推進（給食）	園で採れた食材を献立に取り入れたり、クッキングなど年齢に応じた食育に取り組み、食事を楽しむことができる工夫をしている。	4
食事の提供（調理）	大量調理マニュアルに沿って適切に各処理や調理を行ったり、異物混入などないように衛生管理を行ったりした。子どもの個人差を考慮して盛り付ける量を加減できるように工夫している。	4

4. その他必要な評価

評価指標	考 察	園総合評価
園評価アンケート	<p>保育園の目標や方針などは年に一度説明を行うことで理解をしてもらえている。園行事や保育の様子などはほいくえんニュースを配布することで様子を伝えることができていると感じている。職員と話しやすい関係になってきたことで、困ったことなど気軽に尋ねることができるようになってきている。送迎に祖父母が関わる家庭も多く、連絡事項など掲示板だけでは、伝わりにくいこともあり、内容に応じて連絡帳やウサギメールなどの活用も必要なこともある。</p> <p>コロナウイルス感染防止の観点から、人との接触や地域のお年寄りとの交流ができなかったため、地域との関わりが薄くなっている。地域との関わり方については、様々な方法を探っていく必要がある。</p>	3

5. 本年度の重点目標及び総合的な評価結果の考察等

- ・園児がのびのびと遊ぶ中で、考えたり、試したり、友達や保育者と十分にコミュニケーションをとったりすることができるような環境づくり

園児数が少ない為、大勢の友達と一緒に考えたり、試したりする遊びをすることは難しい。子どもを中心に考え、子どもの興味や関心を持っていることを大切にし、子どもの成長に寄り添いながら、のびのびと遊ぶことができるように人的配置の工夫や必要な用具で環境を整えてきた。配慮や援助が必要な子どもについては、職員の共通理解のもと他機関と連携を取りながら園全体で見守ってきた。

- ・職員の資質向上

園外の研修の機会には、新しい情報や他園の保育環境を吸収し、日々の保育に生かせるようにした。また、保育園職員として知っておかなければならないことを園内研修に取り上げ、共通理解できるようにした。

平成30年より言葉による伝え合いをテーマに勝山3園で続けてきた合同研究を今年度岡山県保育研究大会で発表することができた。継続して研究をすることにより、より細やかに子ども達の読み取りを行うようになった。

- ・地域や小学校との連携

地域のつながりを大切にしているが、コロナウイルス感染拡大防止の観点からお年寄りとの交流は難しくなり、小学校との交流に重点を置いてきた。小学校と連絡・相談を行いながら、交流を行い、子どもたちが楽しみながら小学校に親しみをもつことができるようになった。また、子どもや保護者が安心して就学を迎えられるように個人懇談を行い、必要なことは保育要録で伝えるようにしている。

- ・安心安全な給食の提供及び食育活動の実践

地域の方の好意で使わせていただいている畑などを利用し、年間を通して常に何かの野菜に触れられるようにしている。収穫した野菜を給食に入れるなど野菜を身近な食材にすることで、食への意欲や関心が高まった。

調理員は健康状態や調理場の衛生管理に注意をし、安全、安心な給食の提供に努めている。また、子どもの個人差を考慮して盛り付ける量を加減できるように工夫している。年齢に合わせた食へのかかわり方により、食事を楽しむことができるようになってきている。

6. 評価結果を受けての具体的改善方策等

- ・園の目標や全体的な計画から毎月の指導計画につながっていることを伝え、毎月お知らせしている各クラスの目標についても説明するようにする。
- ・情報の連絡手段として、全体には掲示板を使用することが多いが、必要な時には、連絡帳で個別にお知らせをしたり、連絡ツールの一つとしてウサギメールの活用もしていくようにする。
- ・子どもや保護者が安心して就学を迎えられるように小学校との交流や連絡会、見学などを行い、スムーズな接続ができるようにしていく。
- ・コロナウイルス感染拡大防止の観点から、地域との交流活動ができなくなっている。お年寄りのサロンの代表などと相談をし、感染予防策を講じながら、ふれあいを行っていきたい。

園評価基準

評 価	基 準	
4	80%以上の達成度	十分達成されている
3	60%以上80%未満の達成度	概ね達成されている
2	40%以上60%未満の達成度	取り組まれているが、成果が十分でない
1	40%未満の達成度	取り組みが不十分である